

Prediction of 6-thioguanine nucleotides levels in Japanese patients with inflammatory bowel diseases during long-term thiopurine administration

河内, 修司

<https://hdl.handle.net/2324/1544041>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名： 河内 修司

論 文 名： Prediction of 6-thioguanine nucleotides levels in Japanese patients with inflammatory bowel diseases during long-term thiopurine administration
(チオプリン製剤で長期治療中の日本人炎症性腸疾患患者における
6-チオグアニンヌクレオチド濃度の予測因子)

区 分： 乙

論 文 内 容 の 要 旨

背景：チオプリン製剤投与中の炎症性腸疾患患者では、6-チオグアニンヌクレオチド (6-TGN) 濃度を測定することが望ましい。

目的：本研究の目的は、チオプリン製剤を投与中の日本人炎症性腸疾患患者において、6-TGN 濃度を予測し得るパラメーターを明らかにすること。

対象と方法：アザチオプリンもしくは 6-メルカプトプリンを 90 日以上投与された炎症性腸疾患患者 54 例 (潰瘍性大腸炎 32 例、クローン病 22 例) において 6-TGN 濃度を測定した。血中パラメーターと 6-TGN 濃度間の相関関係を調査した。治療域 6-TGN 濃度とされている $235 \text{ pmol}/8 \times 10^8 \text{ RBCs}$ 未満もしくは以上を判断するために、臨床的・血液学的因子を評価した。

結果：6-TGN 濃度はチオプリン製剤投与前後における平均赤血球容積 (MCV) ($R=0.423$, $p=0.001$) とリンパ球数 ($R=-0.280$, $p=0.04$) の変化量と明らかに相関した。多変量解析では、MCV の変化量 (OR:1.22, 95%CI:1.07-1.40) とヘモグロビン値の変化量 (OR:0.59, 95%CI:0.35-0.99) が 6-TGN 濃度を予測する因子であることが示された。治療域 6-TGN 濃度である $235 \text{ pmol}/8 \times 10^8 \text{ RBCs}$ 以上であることを予測する最も適切な MCV 変化量の cut-off 値は MCV3.5f1 以上の上昇であった。

結論：チオプリン製剤投与中の炎症性腸疾患患者において、MCV の変化量は 6-TGN 濃度を予測するのに有用であると思われた。